

ふくしま学力調査等の結果分析を活用したエビデンスに基づく授業改善
—算数・数学授業づくり支援訪問を通して—

福島県教育庁義務教育課 研修支援チーム 主任指導主事 富岡 泰成

1 事業（研究）の趣旨

今年度、義務教育課内に研修支援チームを立ち上げ、各学校からの要請を受けて「算数・数学授業づくり支援訪問」を実施している。支援訪問では、「主体的・対話的で深い学び」を視点に、育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりや校内研修の充実を目指し、継続的な支援を行っている。さらに、ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査の結果分析のエビデンスに基づき、学校の現状を踏まえた支援も併せて行っている。

また、全県的な課題をテーマとし、学習を深め、広げる授業や学習内容が確実に定着する授業などの授業づくりに向けた「授業の魅力化応援オンライン研修会」を実施している。

これらの取組を通して、授業の質の向上を図り、子ども一人一人の学力向上につなげる。

2 事業（研究）の概要

(1) 研修支援チームによる取組

- 「算数・数学授業づくり支援訪問」について
- 「授業の魅力化応援オンライン研修会」について

(2) 4つの視点に基づく「授業づくりシート」の活用による授業改善 ※配付資料参照

- 「本時のねらい」の明確化
- 「ねらいが達成された子どもの姿」の具体化
- 「働かせる数学的な見方・考え方」の明示
- 「指導と評価の一体化」の実現

(3) ふくしま学力調査における「学力の伸び」に基づく授業改善

- 子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化
- エビデンスを教科指導に生かすために
- 大学との連携によるふくしま学力調査等の結果分析活用

3 支援訪問から見えた強み（よさ）と課題

(1) 強み（よさ）

- 導入や指導形態の工夫により、「主体的な学び」「対話的な学び」の視点による授業改善が進んできている。
- 授業の約束事や学習に向かう心構えが子どもたちに身に付いている。
- 「問い返し」や「働きかけ」により、話し合いをコーディネートしている。
- 本時の学習のまとめ、振り返りの時間を確保している。
- ICTを積極的に活用している。

(2) 課題

- 一単位時間のみが目が向けられ、単元全体を見通した構想が明確にされていない。
- 子どもに「問い」が生まれる前に、教師の言葉で学習課題が設定されている。
- 子どもたちが追究・解決の計画や見通しをもたないまま、自力解決等に進んでしまう。
- 話し合いの視点が焦点化されないままペア学習やグループ学習が生まれ、本時のねらいに迫るような話し合いが行われていない。
- 子どものできる限界を教師が決めてしまっている。